

# 2016年度 公開研究会総括

## 公開授業担当者

- 公開授業の機会を得たことに感謝している。準備を通じて、ALの手法をより深く学ぶことができた。また、教科の内容や指導法についても、いろいろと考える機会となり、新しい指導方法を見つけることができ、授業力も向上した。
- 多くの教職員の協力があったからこそ成功させることができた。ユニットミーティングや教科会、模擬授業、研究授業などの準備を通じて、教科内だけでなく、他教科の教員からも多くの助言を得た。
- 生徒たちもよく協力してくれた。担任しているクラス、長年担当し続けてきたクラス、今年度初めて担当したクラスなど、さまざまなクラスがあったが、どのクラスも教員・生徒相互の人間関係が良好であった。そして、生徒たちがAL型授業に十分に慣れていたことなどで、公開授業を計画通りに進めることができた。生徒たちの応答は、授業者や参観者の期待を上回るものであった。
- 授業中の活動・発表は、授業の中だけでは完結しない。授業における知識の定着を図る課題や、思考力・判断力・表現力の養成につながる課題を与えることが必要だと感じた。
- 公開授業開始前に、本時の位置づけ、クラスの状況などの事前説明が必要だと感じた。1年間という期間を、もしくは前期後期・前半後半というそれぞれのタームを、私たちは計画的に指導している。また、授業だけでなく、学校生活におけるさまざまな場面で生徒と接触していき、これまでの指導過程や生徒の現状を説明することで、参観者の公開授業に対する理解が深まるはずだ。
- 公開授業直後の質疑応答・講評の時間をもう少し長くすべきだ。また、参観者コメントシートが授業担当者に速やかに渡されるように改善する必要がある。
- 公開授業について、学園内部の教員と直接意見を交換する機会を作る方が、研究会としての発展性が見込まれる。

## 生徒に対する評価

- 公開授業では、生徒が生き生きと活動していた。AL 型授業の形式に慣れており、また、それぞれの活動・発表などの意図をよく理解していた。
- 中 2 は「探究」の授業で行った、「鎌倉探訪」について発表した。ホールでの発表は緊張するはずだが、発表者は皆落ち着いており、内容も素晴らしいものであった。
- 中 1 は「探究」の授業で行った、「横浜探訪」について教室で発表した。中 1 が、大人を対象に堂々と発表している様子は、来校者から高い評価を得た。実際に見聞きしたものをきちんとまとめていた。
- 高 1 女子の受付は、応対が適切でさわやかであった。

## 授業担当者以外の教員

- 来校者と積極的に交流して、桐蔭の情報を発信する立場にある。そして、公開研究会は本校にいながら、他校の現状や方法論などを積極的に学ぶことのできる貴重な研修の機会でもある。本校教員（授業参観者）と来校者とが同じ授業に参加したうえで、さらに意見を交換できるような交流の場・機会が必要だ。
- 公開研究会を主催する立場として、来校者の意見・感想を是非とも知りたい。それらを踏まえて、日々の教育、及び、来年度以降の公開研究会をよりよいものに改善していきたい。

## 参観者より

- 自分自身が AL 型授業を実践するための具体的な方法を知りたい。
- 桐蔭学園の現状、及び、従来型の授業から AL 型授業に移行することで何がどのように変化したか、また、AL 型授業の成果などについて知りたい。
- 中・高で AL 型授業を受けた生徒たちに対して、大学ではどのような教育を施すべきかを考える手がかりが欲しい。
- 振り返りシートの実物が欲しい。